

## 会議録

会議の名称	令和4年度第5回教育計画策定懇談会
開催日時	令和5年2月13日（月曜日）午後1時から
開催場所	西東京市役所イングビル3階第3・4会議室
出席者	<p>【委員】川原副座長、竹之内委員、落合委員、竹田委員、西原委員、鈴木委員、荘委員、小林（宏）委員、小林（正和）委員、宮本委員、 （欠席）種村座長、瀬沼委員、菅野谷委員</p> <p>【事務局】掛谷教育部副参与兼教育企画課長、名古屋教育部主幹、近藤学務課長、山縣教育指導課長、田中教育部副参与兼教育支援課長、吉田社会教育課長、福所公民館長、徳山図書館長、佐々木教育企画課課長補佐兼企画調整係長、高枝教育企画課企画調整係主査、今中教育企画課企画調整係主事、望月教育企画課企画調整係主事</p> <p>【傍聴人】0人</p>
議題	<p>議題1 西東京ふるさと探究学習について（情報提供）</p> <p>議題2 西東京市教育計画（令和6～10年度）の体系・骨子（案）について</p>
会議資料の名称	<p>資料1 西東京市教育計画策定のためのアンケート調査報告（抜粋版）</p> <p>資料2 教育に関する教員アンケートについて（中間）</p> <p>資料3 西東京市教育計画（令和6～10年度）の体系・骨子（案）</p> <p>参考資料 西東京の探究学習について</p>
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録

### 会議内容

<開会>

#### 1 西東京ふるさと探究学習について（情報提供）

○事務局

（補足資料について説明）

○G委員

これまでの総合的な学習というものは、どのような形で、何を目的にしていたのか、またそれがどのような形でシフトするのかを、御説明いただきたい。

○事務局

これまでも総合的な学習の時間の趣旨に沿って教育活動を行ってきた。コミュニティ・スクールを推進する上で、より地域と一体化して、育てたい子どもの像を明確にした形で進めていくことができないか、豊かな西東京市の資源と人材等を活用できないかということで、改めて「西東京ふるさと探究学習」を位置づけている。

○G委員

例えば、総合的な学習の中で、小学校の場合、地域の方の味噌づくり等を体験しつつ、食べ物や植物の成長について学ぶ、というような総合的な学習をされていると思うが、そのような捉え方でよろしいか。各学校が、地域住民と一緒にカリキュラムを作っていくということでもよろしいか。また、中学校でも実施しているのか。

○事務局

そのような考え方である。また中学校に関して言うと、中学校のカリキュラムや実態等に沿った内容かどうかによるものになる。校長をはじめとした教員が創意工夫をして、問題解決のための学習を進めている。具体例としては、職業体験で、いろいろなキャリアをお持ちの方からお話をお伺いし、自分の将来像を描いたり、調べて分かったことをプレゼンテーションの形で発表したりするという活動をしている。

○A委員

ある程度、見えている地域の方たちと学校が手を組んで作っていくことになると思うが、できているものを学ぶというよりも、子どもたちが学びたいことを教員がくみ取り、組み立てていくほうが良いと思う。

○事務局

ご意見の通り、総合的な学習の時間の趣旨は、基本的にはそのようなことであると考えられる。子どもたちの学びに向かう力をしっかり育てよう、主体性を伸ばそう、ということである。教員の専門性を生かしながら計画・立案し、子ども達と授業内容を作っていくと考えている。

○C委員

これは来年度から実施されるということだが、結構な長さの時間を割いていくということで、楽しみに感じている。小・中学校の児童・生徒が地域の人と関わるということだが、具体的にどのような方たちと関わることを想定しているのか。

○事務局

初めに対象者を決めてしまうと子どもたちの思いが実現されないということもありうる。例えば、探究の学習をしていく中で、地域の川のことを調べたいというのであれば川の専門家の方に、ホームページのデザインについての学習ならデザインの専門家の方に、という風に教員が地域の方や専門家の方との出会いを作っていく形になる。

ただ、急に言われても、地域の方が対応することは難しいと思うので、カリキュラムをマネジメントしていく教員の手腕が必要だと考えている。

## 2 西東京市教育計画（令和6～10年度）の体系・骨子（案）について

○副座長

事務局より、「西東京市教育計画（令和6～10年度）の体系・骨子（案）」の説明をお願いする。

○事務局

（資料1と3について説明）

○副座長

基本方針1から基本方針4のタイトルを含めて計画の文言については、懇談会の意見を踏まえて、今後検討していくという理解で良いか。

○事務局

その通りであり、今後の検討のためのご意見をいただきたい。

○副座長

まずは、体系・骨子（案）の骨組みについてご意見をいただきたい。

○D委員

現行計画では、基本方針3の4に「家庭における教育力の向上」が入っているが、体系・骨子（案）では、基本方針2に入っている。これは、子どもの心は家庭、ということなのか。家庭教育の捉え方や位置づけを変えていくという解釈でよろしいか。

○事務局

子どもの心の健康やウェルビーイングに関するものとして、基本方針2に仮でまとめる案としている。また、「家庭における教育力の向上」という文言がふさわしいものなのかということもある。ご意見を踏まえて検討したい。

○D委員

家庭に対して、教育計画がどれほどの拘束力を持つのか、また、拘束力を持つ必要はあるのかと考えると、難しいことだと思う。

「家庭における教育力の向上」という文言がふさわしいかどうかは分からないが、基本方針2に位置することには違和感がある。家庭の教育について基本方針2に位置づけることで、子どもの心の問題は家庭だけの問題という見え方に感じられてはいけないと思う。

○事務局

現行計画でも68ページの「公民館、図書館、社会教育で、家庭向けの教育力向上のための取組」が、教育委員会が中心となって行うことと位置付けられている。

基本方針3のまま位置づけるのであれば、「心の健康」のイメージとは少し違う、子どもたち一人ひとりが学習に向き合える体制を学校・地域ネットワーク等で作っていき、というような括りになるのだと思う。もちろん、その場合であっても基本方針2の目指すものとの関連が途切れるわけではないと考えている。

○G委員

現行の計画の基本方針のイメージ図は、子どもの心の健康と育ちを大事にしていることがよく分かる。

今後、コミュニティ・スクールが推進され、学校と地域がより緊密に連携していくということで、学校教育と社会教育が今までよりも手を結んでいくというイメージを持っている。

次期教育計画の中では、学校教育と社会教育の両方が大事であり、学校教育を地域、社会全体で支えていくものというようなイメージを表現してほしい。

○事務局

生涯学習の中でも、人生100年時代に、地域でどのように活躍していくのかがテーマの1つになる。また、地域とのつながりを考えれば、コミュニティ・スクールなどが挙

がってくるのだと思う。現行の計画でいう基本方針3、4のつながりについて、より分かりやすく表現できるように検討したい。

○J委員

基本方針の中で、例えば、「豊かな心」「健康づくり・体力づくり」「一人ひとりを大切に」というようなコンセプトは、だれも反論できないものだと思う。

唯一、「社会の変化にこたえる」という目標は、分かりにくいと感じる。社会の変化とは範囲が広すぎて、単純に、デジタル機器を使いこなせる子どもを育てることなのか、より深い内容を指しているのか、よく分からない。

○事務局

社会全体の構造が変わっていく中で、子どもたちがこれからの時代を生き抜いていく力を身につけるということを意味している。

○J委員

そのようなことを実現しようと考えたら、型にはまった教育ではできないと思うが、そのようなこともイメージしているのか。

○事務局

従来の方で身につける学力にも大事な部分もあるし、これからの時代を生き抜いていく力も大事だと考える。教科書の学習だけで良いということではなく、総合的な学習の時間も含めて、学校で、生き抜いていく力をどのように育ていけるのかということは、書いていく必要があると考えている。

○J委員

難しいことだが、是非、実現に向けて努力していただきたい。

○副座長

グローバル化等も含まれた変化というイメージであり、21世紀にはOECDの中のキー・コンピテンシーが重要で、これには3つの力が必要だと言われている。ICTを使いこなす、自ら主体的に動ける、社会とのつながり、関係性をつくるということである。広い意味を含むので骨子としてはこのまま文言を残しつつ、具体的な取組などを検討する中、そのニュアンスを示すことができると良いと思う。

○H委員

現行の教育計画のイメージ図などを見ると理念が込められ、その点は良いと思う。一方で、具体的な取組事業のページを見ると、必ず同じ課の名前が縦に並んでおり、縦割り行政的な印象がある。教育計画は行政のための計画ではなく、子どもや市民の方のための計画である。次期教育計画の策定に当たっては、理念も大事だが、その理念実現のためにどこに力を入れて、どこに予算をかけて、何を実現していくかという具体を先に議論する必要がある。

#### ○事務局

委員の皆様には本日、基本方針や骨子という大きな枠組みの議論をしていただいているが、具体的な取組事業についても次年度以降で議論いただく予定である。

具体的な内容については、この先の5年間に教育委員会としてどのようなことをしていかなければならないのか、そのためにはどこの課でどのようなことを行うのかを書いていくことになる。取組事業の内容によっては複数課で連携して実施していく必要があるので、その点も計画の中に位置づけていく方法もあると思う。

#### ○副座長

ここまでの議論を踏まえ、大きく2点についてご意見をいただきたい。

1点目は「家庭における教育力の向上を支援する」という方向に関する部分で、子どものウェルビーイングや幸福度を高めていくという観点からの基本方針2にカテゴライズしているということであったが、各委員のお考えはどうか。

もう1点は、基本方針4の方向4「学びを核とした地域づくり」の位置づけ方である。基本方針4の「学びを核とした地域づくり」については、イメージがしやすく、地域をつくる上での学び、教育の重要さが出ているという印象を受ける。

ご意見等があればお願いします。

#### ○A委員

68ページ「家庭教育に関する学びの機会の充実」は、基本方針2より基本方針3の方が、言葉が合っていると感じる。もちろん、それぞれの家庭の保護者が地域の目として参加していくということは非常に大事だとは思いますが、家庭ではなく家庭も包含した地域の中で育てるニュアンスの地域とした方がふさわしいと思う。

#### ○副座長

家庭教育の捉え方は難しく、捉え方として学社連携、学社融合という時には、おそらく家庭教育、社会教育のカテゴリーに入ることが多く、その際には社会教育に家庭が含まれる。また、子どものウェルビーイングとはいわゆる「HAPPY（楽しい）」ではない子どもの幸福に近いニュアンスだと思うが、ウェルビーイングは、訳すことが難しい言葉で、福祉のニュアンスを含むこともある。

ここでの意味合いや議論として、子どもが生きて暮らす場所は、家庭であり、地域であるといえるのではないか。

#### ○H委員

基本方針2の方向1「相談・支援の充実」も、方向2「教育支援体制の充実」も、一人ひとりの子どもの教育ニーズに合わせた支援という点からは同じことを言っていると思う。違いは支援を行うのが行政か学校かの違いにしか思えない。基本方針1、2、3、4が何を基に分類しているのか、はっきりとしないと整理できないと思う。

#### ○I委員

前回の計画のように、基本方針ごとの内容を示すタイトルを挙げ、方向を示すことが必要だと思う。その内容にふさわしい基本方針に、各項目を当てはめれば良いと思う。

○事務局

事務局としては、いくつかの具体的な記載の括りで各基本方針の項目をまとめようと考えている。このような括りをする時に、「家庭における教育力の向上」のような項目をどこに入れるのか検討できればと考えている。

○副座長

今回の4つの基本方針は、所管課によって分けるのではなく、基本方針の中の分類で分けているという理解でよろしいか。

○事務局

次期の計画においても基本方針を所管課で分類したいと考えているわけではない。次期の計画をどのような括りにできると取組事業が効果的に子どもたちや市民の方のためになるか、分かりやすいかという点が大切である。

○副座長

まとめると、基本方針1は、学校における教育内容や児童・生徒の学習面が中心になっている、基本方針2が児童・生徒の全体的なウェルビーイングの話で、基本方針3が学校を核とした地域づくり、学校の環境づくりの取組がまとめられていて、基本方針4が生涯学習というように読み取れるが、そのような解釈でよろしいか。

○事務局

今回の資料は、今、お話のあった考え方で作成したところであり、本日のご意見を踏まえて、改めて検討したい。

○副座長

他にご意見等があればお願いします。

○G委員

今後は、コミュニティ・スクールということで、学校教育と社会教育というものが、特徴的にでてくるのだと思う。西東京市でどのような地域をつくり、どのような子どもを育てていきたいのかを考え、それにはコミュニティ・スクールでふるさとづくりが必要だとなれば、それをもう少し分かりやすく出していくと良いと思う。

○副座長

委員のご意見1つ1つに重要なキーワードが出てきている。これらを受けて今後の議論を深めていきたいので、他にもご意見等があればお願いします。

○D委員

子どもの側からみた教育の必要性、何が求められているのか、人が幸せに生きていくために必要なものは何か、それを提供、実現するのに一番役割を果たすのはどこか、行政・学校か、地域・家庭なのか、そういった整理が必要だと思う。

その整理の中で基本方針2になるのであれば、そこに「家庭における教育力の向上」が入ることに納得できる。そういった点から「家庭における教育力の向上」の方向を検討してほしい。

○副座長

今回、ウェルビーイング自体も非常に大事なキーワードだと思うが、先生方のウェルビーイングに着目したい。先生方のウェルビーイングが高まることで、それが子どもたちのウェルビーイングの向上につながると思う。

なお、ウェルビーイングの概念自体は非常に重要だが、分かりやすい言葉に置き換えて表現した方が良いと思うので、是非、工夫していただきたい。

○G委員

ヤングケアラーが話題になっているが、アンケート調査を見ると、小学生が幼い兄弟の身の回りの面倒をみている割合が読み取れる。中学生になると、弟妹も大きくなり、世話する必要がなくなるのだと推測する。この調査だけでは実態は分からないが、こういったケースがあるのだと分かった。

○副座長

ヤングケアラーについては重要な課題だと感じている。

○D委員

日本語が十分でない外国人の御家庭で、子どもの方が早く言葉を覚えるので、親のために学校を休んで通訳のために市役所等に出向くという話も聞いている。教育計画の中で大きな取組として書くことは難しくても、この先、外国人が増えていく中で、外国人の御家族の中で子どもがケアラーになる場合もあるということ想定した考え方が必要になってくる。キーワードや基本方針的なものの中にインクルーシブという言葉もあるので具体的な議論の中で話していきたい。

○E委員

ヤングケアラーについて、当事者の方と話をした時に印象的だったことは、ポスター等で辛いことがあった時は相談して、とあるが、当事者は辛いと考えたことはなかったという事実である。

辛いということが具体的にどのようなことなのか、本人が気づいていない場合もあると思う。大変なことは何かと聞くと、毎日の献立を考えること、という回答だった。ヤングケアラーへの支援は簡単なことではないと思うが、献立を一緒に考えるというような身近なことを支援できればと思う。

辛いことがあった時ではなく、大変なことがあったら相談して、と呼びかけることで、子どもたちも手を伸ばしていけるのではないか。

○A委員

ウェルビーイングに関して宿題のあり方も検討していただけないかと思う。私の子どもは、学級閉鎖の時等に宿題がまとめてたくさん出ると、学習がおもしろくないと言う。反復繰り返しで得られるものがあることは理解しているが、反復の練習が退屈な様子で、子どもが宿題に取り組んでいるのを間近で見ていると、おもしろくないものを無理に教えているような気がしてくる。学びとは楽しいものだ気づいた時に学習意欲も育つと思う。

○D委員

子どもは、楽しいと思ったことだけが入ってくる。今は学習内容をできるだけ退屈なく、分かりやすくするための教材が出てきて大変工夫されている。色分けしたり、デジタルを使ったりすることが可能になっている。一方で私の子どもが小学生の時に、先生から、体を使って漢字を書くということを教えていただいた。そういった便利な教材だけでなく、リアルで学ぶといった学習も大事だと思う。デジタルがあるから、リアルなものは不要という考え方ではない。バランスを取ることが重要である。

#### ○B委員

教員としては、授業準備に多くの時間がかかっているものの、報告書の作成や会議の方が負担感は大きいということなので、子どもの授業づくりの時間ということに、教員の意識が向くように、工夫することが必要だと思う。

形だけの会議に出席したり、定型の報告書を作ったり、対面で報告したりといったことがあるのなら、それは電子掲示板のようなデジタルを使った共有機能を使って効率化し、むしろ子どもと向き合うことや教えるために準備する時間を使えるようにできると良いと思う。

#### ○I委員

ヤングケアラー、家庭教育についての議論があったが、教育委員会だけの問題ではなく、家庭の環境の問題については、子ども家庭支援センターや警察、児童相談所とも連携している。具体的な取組の中でそのような連携を全体で取り組むということに記載していただけると良いと思う。

#### ○H委員

「学校や先生方に望むことは何ですか」という設問があるが、29年度調査に比べて、どの項目の割合も減っている。「先生と遊んだり、話したりする時間がほしい」という子どもの割合も減っている。増えている項目は「特になし」である。

これは学校にいて強く感じることで、勉強は塾でやる、野球部、サッカー部等の入部はせず、運動も外部クラブチームでやるという風潮で、学校には期待しないという雰囲気漂っている。また、子どもの中にも、学校の先生になりたいという者は少ない。

子どもに関心を持ってもらうために、学校経営の面で、何をしなければならないのかと考えている。働き方改革を進めながら、教員の魅力も高めて、かつ、学校に対する市民の皆さんの期待や関心も得られるようにしたいと感じる。

#### ○副座長

このアンケート調査からは、多くの方からのデータが得られるが、子どもたちが先生に教えてほしいということと、先生方が子どもに、教えたいということには差があると感じる。この部分も自由記述などを分析してもらいたい。

#### その他

##### ○事務局

(ワークショップ、次回会議日程についての情報提供)

<閉会>